

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年9月22日(月)～28日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、みことばによって主を食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。「あなたの口を大きく開けよ。」(詩篇 81:10)

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

昨日から、聖書日課は旧約聖書「エレミヤ書」。預言者エレミヤに主が語られたことを、聞き続けましょう。BC626年ヨシヤ王の時代から約40年間、ゼデキヤ王の時代に至るまで。

9月22日(月)

今日の聖書日課：エレミヤ 2:1～19

わたしの民は二つの悪を行った。いのちの泉であるわたしを捨て、多くの水溜めを自分たちのために掘ったのだ。水を溜めることのできない壊れた水溜めを。

エレミヤ 2:13

一つ目の悪は主を捨てたこと。二つ目は他国とその偶像を求めたこと。これは別々のことではなく、ひとつのことでした。泉は一つ、壊れた水溜めは複数。エジプトにアッシリアに、その神々に頼った南ユダ。それは壊れた水を溜めることができない水溜めでした。役に立たない。その背景にあったのは、ただひとりの神、主を捨てたからです。

今一度、「いのちの泉」に目を注ぎましょう。こんこんと湧き上がる泉です。神さまはそんなお方です。これを見て、ここから飲んで、それでどうして壊れた水溜めを掘りますか？

9月23日(火)

今日の聖書日課：エレミヤ 2:20～37

おとめが自分の飾り物を、花嫁が自分の飾り帯を忘れるだろうか。しかし、わたしの民はわたしを忘れた。その日数は数えきれない。

エレミヤ 2:32

「おとめ」「花嫁」とはユダの民、「飾り帯」とは主のこと。きれいな慕わしい情景です。しかし、ユダの民は自分たちが美しい花嫁であることも、また、主が自分たちを美しくする飾り帯である主のことも忘れてしまったのです。そして、アッシリア、エジプトとその偶像に心を移しました。忘れてしまう？そうです。忘れるのです。私たちもまた、信仰生活の中で、神さまを忘れます。預言者エレミヤは忘れてしまっている民に、主のことばを語り続けたのです。彼らが思い起こすために。私たちが日々、みことばに聞くことも同じです。忘れている私に神さまが語られます。

9月24日（水） 本日は祈祷会の日。みことばの恵みを分かち合いましょう！

今日の聖書日課：エレミヤ 3：1～25

「まことに、もろもろの丘も、山の騒ぎも、偽りでした。確かに、私たちの神、主にイスラエルの救いがあります。」

エレミヤ 3：23

預言者エレミヤがユダの民を代表して主に対して語ったことば。「偽りでした」。それは偶像に心に向けてそれらに頼り続けた結果、わかったことでした。私たちは神でない者に自分の心に向けて生きていった結果、わかることは「偽りでした」ということ。空しい、ということです。そこで私たちは「主にイスラエルの救いがあります」と身に染みて気づくのです。放蕩息子のようなこと。

9月25日（木）

今日の聖書日課：エレミヤ 4：1～18

「イスラエルよ、もし帰るのなら、一主のことば—わたしのもとに帰れ。もし、あなたが忌まわしいものを わたしの前から取り除き、迷い出ないなら、」

エレミヤ 4：1

目が覚めた放蕩息子はどうしたのでしょうか？彼は帰ったのです。父の家に。ここでも主はエレミヤを通してユダの民に「帰れ」と言われました。「わたしのもとに帰れ」と。帰るところ、戻るべきところがあるのです。それは、「忌まわしいもの」を取り除くことにつながります。しかし、まず、帰るということ。その決意！帰ること。からだの向きを変えること。振り向くことです。そこからすべてが始まるのです。

9月26日（金）

今日の聖書日課：エレミヤ 4：19～31

私が地を見ると、見よ、茫漠として何もなく、天を見ると、その光はなかった。

エレミヤ 4：23

茫漠？光？どこかで聞いたような。そうです。「地は茫漠として何もなく、闇が大水の面にの上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。（創世記 1：2～3）。天地創造の初めです。エレミヤにとってユダの民は茫漠：何もない、そして光がない。そんな状態でした。かつて神が 100%ご自分の力で創造のみわざを始められたように、このユダの民もまた、同じ神によって、神だけによって回復させられるのです。

9月27日（土）

今日の聖書日課：エレミヤ 5：1～18

しかし、その日にも一主のことば—わたしはあなたがたを滅ぼし尽くすことはない。

エレミヤ 5：18

エレミヤの預言は「滅び」のことばでした。創造主であり、救い主である主を捨てた民は滅ぶべき者たちでした。しかし、主は言われます。「わたしはあなたがたを滅ぼし尽くすことはない」。これを聞いて何を思うのでしょうか？神を甘く見る？そうではありません。滅ぶべき民を滅ぼし尽くさないとされる主の熱心を知るのです。

あなたが神さまに熱心でなくても、神さまはあなたに熱心になっているのです。

9月28日（日）岸和田 5 教会合同礼拝

礼拝説教箇所：黙示録 21：9～11、22～27「共に神の都へ」

貝塚聖書教会、山里将之牧師がみことばを語ってくださいます。

主に期待しましょう！